

令和5年度 やまがた社会貢献基金助成事業 活動報告書

団体名	特定非営利活動法人 みなと研究会		
事業名	山形県リサイクル認定製品カキ殻土壌改良剤で日本一美味しい農作物の栽培		
助成事業区分	協働助成事業（一般型 自由提案部門）		
団体の 所在市町村	酒田市	事業費	415,130 円
		うち助成金額	415,130 円
事業実施期間	令和5年6月6日～令和6年2月28日まで		

事業目的・実施内容	<p>(事業目的)</p> <p>出羽富士ともいわれている鳥海山麓に広がる棚田は本当に素晴らしい環境に恵まれた地域で、庄内地域でも「米」が美味しい地域ですが、新品種の稲作の作付けは得られていません。</p> <p>そこで、NPO法人みなと研究会が実行委員会を設立し、棚田の農家、遊佐町も取り組む棚田の町おこし地域振興活性化を目的としました。</p>
	<p>(実施内容)</p> <p>山形県遊佐町で、山形県リサイクル認定製品のカキ殻土壌改良剤を新品種（山形糯128号）に散布し有機栽培調査研究を実施。</p> <p>日本一美味しいおにぎりとお寿司米の稲作栽培を、多様な団体が一体となって取り組み、できあがった米が何に適しているか、食味をして棚田の地域振興活性化を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～7月 棚田、田んぼにカキ殻土壌改良剤を散布 ・9月 稲の刈入れ ・10月 乾燥 ・11月 米粒の食味分析依頼 ・12月6日 精米、報告・試食会 参加者14人



【棚田には手作業でカキ殻を散布】



【猛暑でしたが稲は無事に育ちました】

事業の成果

- ・休田、棚田を利活用した新たな農作物、稲作の調査研究プロジェクトが設立され、山形県リサイクル認定製品の土壌改良剤を利活用した稲作栽培実証試験がスタートできました。
- ・休田、棚田の利活用を有機栽培の調査研究の活用に庄内総合支庁産業経済部 酒田農業技術普及課と一体となった活動ができました。
- ・休耕田の課題、農家と農協との関わりが見えてきました。
- ・報告会では試食の米について全員が「おいしい」という感想でした。アンケートでは12人中10人から「今後この活動が子どもたちと連携できると思う」という回答を得られました。また、「カキ殻を使用したブランド米になればよい」という意見もありました。

今後の展望

- ・実行委員会の和を大切に末永く継続していきます。
- ・棚田農家の協力者に呼びかけ、「はえぬき」の栽培を計画する。
- ・稲作に留まらず、野菜、果実、草花にも子どもたちと一緒に総合学習として取り組んでいきます。
- ・地域のコミュニティセンターと連携した家庭学習を計画していきます。
- ・山形県理化学分析センターとの連携を深めた活動展開を検討していきます。



【棚田の杭がけ乾燥】



【コンバインで稲抜き】



【報告・試食会】

団体概要

団体名 NPO法人 みなと研究会

代表者 守屋 元志

URL <http://minato.yamagata-npo.net/>